

今さら聞けない！ 医療関係者に聞きたいこと

障がい者福祉職員向け
医療ケア基礎講習会パート1

2020年2月14日(金)

18:00～20:00

アクロスあらかわ 2階 会議室

講師：一般社団法人ナースプラネット
介護アカデミーそれいゆ



医療的ケアがあっても、
生きていく上では、息をして食べることは一緒です。

- 酸素を使っている人

酸素ボンベは外出用で、自宅では、部屋の空気を使って酸素濃縮器を使って濃度をコントロールしています。

酸素を補えば、普通に動けます。

- 経管栄養の人

経過栄養は、口から食べません。

直接、胃や十二指腸に食べ物が入っていただけです。

食事介助をするという意味では同じです。

- 気管切開をしている人、人工呼吸器を使っている人

呼吸を楽に行えるように、直接気管を使って息をしています。

気管にカニューレという器具が入っているので、刺激になり、痰が出やすいです。

- 吸引を必要とする人

痰を自分で出せない、鼻水を自分でかむことができないので、代わりにとってあげるだけです。

医療ニーズに応えた地域の体制づくりが進んでいる。

- 訪問できる医療機関が増えている。
- 専門の医師の訪問が増えている。
(例えば、歯科、整形外科、精神科、皮膚科、眼科、小児科など)
- 訪問看護ステーションが増えている。
- 医療ニーズがあっても通所できるようになってきている。
- 薬局の方も訪問してくれるようになってきた。
- リハビリスタッフ、栄養士も訪問している。
- 医療機器も在宅で使いやすくなっている。
(人工呼吸器、在宅酸素、輸液ポンプ、パルスオキシメーター、吸引器など)
- 医療的ケアを行える介護事業所の需要が増えてきている。

何故、医療のことを学ぶのか？

- 医療の発達により、障がい児者の生命が長くなった。
- 医療機器の発達により、安全に自宅で生活できるようになった。
- 病院の入院期間が短くなった。
- 病院は、手術や大きな機器を使った検査などを行う機関になった。
- 療養が必要な人たちは、病院でなく、地域で暮らせるよう制度改正が進んでいる。

医療ニーズがある人も地域で一緒に暮らしていく世界を目指している。

～もっと詳しく～

- 病院から退院する時に、退院前カンファレンスがあることが多い。その際に、関わる訪問系のスタッフも参加し、その人が使う機器の説明も受ける。
- 医師の指示書は、医療保険、介護保険の保険制度を利用する際には必至。病状や疾病によって医療保険に変わることもある。期間や内容は、その人の状態によって医師が決める。(期間は、3ヶ月とか6ヶ月)
- 医師の指示書は、ほとんど大雑把な指示。
- 胃ろうや気管カニューレ、酸素の機器などは、医療機関、医師が決める。種類はたくさんある。
- 薬の使い方は、指示通りだが、副作用のチェックが必要。
- 人工呼吸器やカフアシストなどの機器の値をセッティングするのは医師なので、変更しない。